

平成 23 年 4 月 9 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中齋塾 東京フォーラム

平成 23 年 第 3 回講話

計画停電という名前で、東電が無計画停電を実施しました。皆さんの中にも実際に停電に当たった方がおられると思います。私も停電に当たりまして、夕方から真っ暗になりました。真っ暗というのは良いですね。色々なことが考えられます。電気が来なかったら、どうやって過ごせばよいか・・・考えた結果、電気のない生活をすればよいのではないかと思いました。ガソリンを買うにも大変な行列でした。それが一番困りましたが、それならガソリンのない生活をすればよい。スーパーやコンビニで食べ物が買えないという状況も、無理に買わなければよいのだと思いました。では、具体的にはどうすればよいのか・・・そういうことを、真っ暗な中で考えていました。

計画停電という名の無計画停電を、私は出来れば 4 月いっぱい迄くらいやってくれればよいなと思っていましたが、早めに終わってしまったので、日本人の意識構造を変える・社会変革をするという壮大な日本の試みは結果として出来なくなりました。それがちょっと残念だと思っています。

嘘をつかない

中齋塾フォーラムでは、<嘘をつかない>ということはずっと言い続けています。これだけ政府が嘘をつき続けていると、国民は何を信用してよいのかわかりません。自分たちの勝手な理屈で、国民の為になると思って嘘をつく。結果として国民を騙すことになる。動機が善なのだから嘘をついてもよいだろうという考えなのでしょうが、国民を振り回すことになるのだから、よくないと思います。大前提として、やはり嘘をついてはいけななと感じました。

今回の一連の地震の中で私が氣になったのは、言葉でした。「東北地方・太平洋沖大地震」という地震の命名だけは早目に出来ました。ところがその後、震災の名前を皆がてんでんばらばらに言っていました。政府がしっかりと言葉の提議をしなければ日本中の意志の統一が出来ないではないかとずっと思っていましたら、やっと政府が発表しました。それに合わせて、ばたばたと言葉の統一がされました。やはりトップの存在は大きいとつくづ

く思いました。トップがきちんと機能すれば、日本国中きちんと機能していくのです。トップがしっかりしていないと、国民はどちらを向いたらよいか分からない。信用できる話は何なのか、右往左往することにならざるを得ないのです。

中斎塾では<嘘をつかない>言い続けていますが、今回の大震災で、あらためて嘘をつかない国が良いな・嘘をつかない政府が良いな・嘘をつかない個々のお付き合いが良いなと実感しました。

では質問に参ります。

震災以降、嘘をつかなかった方？

最近、私はリップサービスでも“これを言ったら嘘になるな”と思うと自然と口が止まります。

明日は投票日ですが、政治家が初当選しますと、例えば小泉さんの息子さんなどを見ると初々しいなと思います。そういう人もだんだん政治の垢に染まっていくと、初々しさが消えて、どす黒い、嘘の塊のような政治家に変貌していくのだなと感じます。今の政治家を見ていると情けなくなります。嘘をつけばつくほど人相が悪くなります。今、枝野さんは人相が悪くなっているのではなくて、良心の呵責に耐えかねて無表情になっているように見えます。菅さんは無表情を通り越して、嘘をついているという自覚があまりないようで、その時その時で良いことをやっていると思い込んでいる顔だと思います。それがトップとしては困るのです。

震災以降、良いと思うことをやり続けて来た。良い一日を過ごしてきたなと思う方？

良いと思うことをやり続けていれば、必ずその人や家庭は良くなっていくと思います。

震災の報道を見て、日本人が避難所でも秩序正しい行動をとる姿は、外国人の驚嘆の的になっています。救援物資にきちんと行列したり、おにぎり 1 個を周りの人と分けて食べている。おにぎり 1 つを三等分しても、次にまたおにぎりが配られると思うから出来るのであって、次々に食べ物が来るという信頼感の上に成り立った行動だろうとは思いますが、現実に実行しているのはたいしたものだと思います。

震災以降、有難うと言い、有難うと言われる日々を過ごしておられた方？

これは意識しないとなかなか続きません。私は有難うと言われることがどうしても少ないので、意識的に有難うと言われるように努力しています。最近私は、人さまに何かして差し上げてその人が心の底から「有難う」と言ってくれた時に、<その人の心をキャッチした>と思うようにしています。そうすると心に残りますから、夜寝る時にすぐに思い出せます。

もう一つ、特に震災以降意識してやりだしたことは、〈今、幸せかな？〉と思うようにしました。夜寝る時だけでなく昼間でも時々、〈今、幸せ？〉と自問しています。きっかけは、被災して避難所にいるお婆さん二人が、炊き出しの温かいうどんを食べて、「美味しいね。幸せだね」「ああ、幸せだね」と会話しているのを見て、なるほど幸せというのはこういうところにもあるのだな・・・と思ったことが大きいです。こういう状況下でも、良かれと思うことを見つけて、素直に幸せだと言える。ああ、日本人だなと思いました。その心持ち・感性は、なかなか他の国の人には出てこないかもしれません。日本人特有のものの考え方が、そのお婆さんたちの中に染み込んでいるのだろうなと思いました。

何とはなしに、そう思う

今回ほど「知足」という言葉が自分の中で重きをなした時期はないと思っています。その時々に応じて〈ほどほど〉で生きる。電気があって当たり前と思う生活から、電気がなくて当たり前の生活に変えればよいだろうとつくづく思っています。電気がない生活を意識して続けている天皇陛下・皇后陛下は、素晴らしいと思います。計画停電が始まってから、ご自分たちでも停電を実行されておられ、尚且つ被災者のところに行かれています。なかなか出来そうで出来ないことだと思います。こういった震災の時に、自分の生活をあるがまま受け入れてその中で幸せを見つけていくというスタイルは、なかなか出来るものではありません。

今日ご紹介する本は木内信胤先生の『日本よ、こう進め』です。木内先生が祈りの言葉でこの本を書いたと言われています。国土のあり方・基本的な日本人のあり方・そして人口の再配置論や農業論や林業論になりますが、日本人はこういうものの考え方でいけばよいという内容が書かれています。この本は、木内先生が第二臨調に関与しておられて、竹下さんが首相になるかならぬかの頃ですから、「竹下さん、これからの日本はこう考えておやりなさい」というような提言が入っています。

私が今回の大震災について先日の合同フォーラムで申し上げた結論は、〈もう一度、自然災害が近い将来に来る〉ということです。なぜそう思うかについては、木内先生のもの考え方〈何とはなしに、そう思う〉が当てはまります。

日本の国民が何とはなしに農業はこうあるべきだ、林業はこうあるべきだと思い出していったら、日本は素晴らしい国になる。食べ物にしても、遠い外国から運んできた旬でもないものを食べるのは、あまり良いことではない。地産地消で自分の周りにある野菜や果

物、出来れば誰が作ったのか生産者の顔が見えるような野菜や果物・魚を食べる。そういう生活に日本人がなったら良いですね。その理屈は？・・・＜何とはなしに、そう思う＞というのが良い。世界の動きをみると、何かが起きると必ず後から学者が色々と理屈をつけるけれども、そんなものはすべて屁理屈だと木内先生は書いておられます。理屈として科学的に根拠のある説明が出来たものは、当たったり当たらなかったりするものであって、日本人が日本人たる特性は、＜何とはなしに、そう思う＞ことによって日本国は動いている。それを自覚できれば日本国は素晴らしい国になる。そして世界全体へその考え方を広げていく責務を持つようになる。皆、理屈が先に来るけれども、それは違う。＜何となくそうしましょう＞＜何となくそうすれば良いことだね・・・＞と皆が思ったら、その方向へ日本の国が動いていく。こういったことが木内先生の本に書かれています。この時期ですので、意識して木内信胤先生の本を3回続けて紹介しました。

今日の論語

では、論語の素読を致しましょう。本日の論語は述而第七 17~25 です。

こういう時ですから、論語を開いて声を出して読んでみる。すると自分の心の中に良いものが注入されてきます。意識してそういう時間を持つとよいと思います。皆さんで読むのもよいし、自分自身で読むのもよしい。黙読ではなく声に出して読んで、イメージが浮かんで、よい文章だなと思うとそれがすっと入ってきます。

では、参ります。

【十七】 し がげん ところ ししよしつれい みな がげん
子の雅言する所は、詩書執礼、皆雅言なり。

雅言とは、標準語で正しく発音することです。孔子が標準語で正しく発音する時は、お弟子さんに教えている時です。この時の標準語とは、周の首都西安付近の言葉です。

孔子が話をする時には、標準語で正しい発音をする。詩（人の情性を正す）書（大小のまつりごと）執礼（人が守るべききまり）すなわち詩経・書経・礼記について孔子が講義をする時は、正しい発音で自然に引き込まれるようなリズムで話をしている。

自然に引き込まれるようなリズムということで、私は金子みすずの詩を思い出しました。私は本屋で金子みすずの詩集を見て感動して、すぐに購入しました。その後、金子みすずの生まれた故郷に出かけて行きました。なるほど、こういう所でこういう詩が出来たのだなと思いました。今、盛んにCMで「こだまでしょうか」という詩が流れていますね。あ

れだけしつこく流されると、ちょっとどうかなと思いますが、良いイントネーションで良い言葉を聞かされていると、やはりいいですね。自分でいいなと思う文章は、時々頭のなかでこだまさせるとよいと思います。

【十八】 葉公 孔子を子路に問う。子路対えず。子曰く、女 奚ぞ曰わざる、其の人と
為りや、 憤 を発して 食 を忘れ、 樂しみて以て 憂 を忘れ、 老の將に至らんとす
るを知らずとしか云うと。

葉公とは、楚の国の葉県の長官、今で言えば知事です。

葉公が子路に「孔子はどういう人物かね」と聞いたところ、子路は答えなかった。(答えられなかったのか、答えなかったのかは分かりませんが)孔子がそれを聞いて、子路に言いました。

「なぜお前は答えなかったのだ。その人物(孔子)は無我夢中になることがあると食べることをすら忘れる。何かを楽しんでいる時には、没頭して自分自身の憂いを忘れる。学を好んで、老年が忍び寄ってくることを氣にもしないで、はっと氣がつくと歳をとっていた。そういう人間だと。」

この時、孔子は64歳です。その当時からみれば相当な老人です。

無我夢中で何かに取り組んでいる時は食を忘れるという部分で、今の大地震で駆けずり回っている人たちは、食事をする事も忘れています。食事をする暇もないのが普通なのかもしれない。被災地に歌手の人や芸人さんが行っていますが、皆、「一瞬でもよいから、この悲惨な現実から離れて、楽しんでもらいたい」と言っています。自分達の持っている能力で被災者が憂いを忘れるということ、現実に行っているのだと感じます。なかなかそういうことが出来る人は少ないから、特殊な能力だと思います。

【十九】 子曰く、我は生まれながらにして之を知れる者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求めたる者なり。

孔子が自分自身を評しています。

私は生まれついて色々なものを覚えていたわけではない。歴史上の出来事を調べることが好きで、これが道理だと思った時には、すかさず自分自身のものにしようと思って、休まず学に勤しんでいた。一所懸命勉強している中で、はっと思った時には、決して忘れない

ように努力をして現在にきているのだ。こつこつと学び、学びのスピードを上げる時には凄まじく速い。そして休まない。そうやって現在に至っているだけのことだよ。

【二十】 し かいきらんしん かた 子 怪力乱神を語らず。

怪は怪異、力は暴力、乱は乱虐、神は鬼神です。

孔子はこういう非日常的なものに関しては話をしなかった。

日常生活が坦々と進む時と、今回の大震災のような非日常的な時とがあります。孔子は偉大なる常識人ですから、非日常のことを敢えて言わずに、日常生活が坦々と送れるようにするにはどうしたらよいかということを一所懸命語って、(それが過ぎたらその次ということだったのだと思いますが) 普段は一切、非日常のことは言いませんでした。

【二十一】 しいわ さんにんおこな かなら わ し あ そ ぜん もの えら これ したが 子曰く、三人行 えば 必ず我が師有り。其の善なる者を択びて之に 従い、
そ ふ ぜん もの これ あらた 其の不善なる者は之を 改む。

三人とは、沢山の人という意味です。

孔子が言うには、沢山の人が集まれば必ずその中に自分が手本にする人物がいるはずだ。その人物を選んで、良い行動をしていると思ったら見習い、悪い行いをしていると思ったら自分はしないように気をつければよい。

今、義援金が被災地に送られています。その他、食べ物や飲み物、毛布等の援助物資が送られている。それを途中で抜く事はしないという暗黙の信頼感がありますが、この間、援助物資を届けに行った人の話しでは、即席ラーメンの箱を受け取った市役所の人が、「自分も被災者で食べ物がないから、自分の家の分を・・・」と言って、目の前で取り分けたそうです。震災から日にちが経っていない時だったからでしょうが、やはり途中で抜いている人もいるのだなと思いました。

義援金にしても寄付金にしても、その後どうなるかが見えません。今回の募金先については二通りありますね。一つは日本赤十字社を通して各自治体が義援金を被災者にまるまる分配する場合と、ある団体が募金を集めて現地に届けて、現地で活動するための資金もその中から戴くというものです。海外の色々な寄付については、活動資金がその中からごそっと取られているということはよくあることだと承知していますが、日本の中でこのよう

に募金活動をしている団体も二種類あるので、自分が募金する先がそのどちらなのか、もう少し分かるように募金活動をすればよいと思います。中には詐欺で自分の懐に入れてしまうような事件も、僅かですが、出ているようです。

今回の義援金の分配については政府が主導で、関係者が集まって決めるようです。今日の新聞をみると、4月いっぱいをめどに、集まった義援金から第一次分配金 500 億円を配るとありました。死亡・行方不明者の家族に対して 35 万円、家が全壊した家族に 35 万円、半壊は 18 万円という規準を決め、これから配り方を検討するということですが、そこまで来たのだなと思います。政府もトップがリーダーシップをきちんと発揮していなくても、やらなければならないことは行政として一つ一つ進めているのだなと感じました。義援金の振分け一つにしても、日本は仕組みとして機能しているので、そこらへんも外国からみると凄いと思うのでしょうか。

中斎塾フォーラムでも、以前ミャンマーがサイクロンで大被害にあった際、皆さんから義援金を集めました。酒井副代表幹事が実際に現地に届けてくれました。お金だけでなく、文房具やお米も買って届けました。酒井幹事の話では、ヤミ市には各国からの義援米が山のように積んであって、それを売っていたそうです。各国から義援米として送られた米を、ミャンマーの政府はお金に代えていたのです。酒井幹事はそのお米を買って、市場で文房具やお菓子も買って被災地の学校に持って行きました。市役所に届けたらほとんどが役人の懐に入ってしまうし、学校に届けたなら教員が皆とってしまうだろうということで、直接子供たち一人ひとりに手渡ししてきてくれました。自分の懐に入れてしまうような行政や役人が世界には非常に多いことは事実です。そう考えると、日本は大した国だと周りから見られて当たり前だと思います。

【二十二】 しいわ てん とく われ しょう 子曰く、天徳を予に生ぜり。かんたい そ われ い か 桓魋 其れ予を如何にせん。

桓魋が孔子を暗殺しようとした。桓魋は孔子の弟子の司馬牛の兄です。衛の国から宋へ行く途中、大きな木の下でお弟子さんたちを集めて孔子が講義をしている時に桓魋に襲われたわけです。

孔子が心配する弟子たちに向かって言いました。「天が私に人間としての素晴らしい徳を授けてくれたのだから、桓魋ごときが私を殺せるわけがない。」

天が私を世の中に送り出したのだから私がこんなところで死ぬはずがない、と自信をもって言ったわけです。

渋沢栄一さんも解説の中で、「何かの仕事を一所懸命わき目も振らず私利私欲も貪らずにやって来た人間はそう簡単に殺されるはずがない。実際に自分は26歳の時に新撰組の壬生浪人に襲われたけれども、こんな連中に殺されるはずがないと思って撃退した」と書いています。又、東京市に水道を作ろうと運動をしていた時に、技術の優れた外国人に敷設をして貰おうとする渋沢栄一さんに対して、納入を目論んでいた日本の業者が、暴漢を雇って襲撃しました。渋沢さんが馬車に乗っているところを暴漢二人に襲われましたが、三井の呉服店に逃げ込んで助かっています。ここでも渋沢栄一さんは、お金で雇われたような者が私を殺せるはずがない。私は天に守られているのだという自信を持っていたようです。そして渋沢栄一さんは自分で正しいと思い込んだら、実行していくような人物でした。自分が良かれと思う事業には奉加帳をもって寄附を集めて歩いたので、渋沢栄一さんが入ると来ると、また寄附をとられると警戒して皆が席を立てってしまったという話もあります。

【二十三】 子曰く、二三子、我を以て隠すと為すか。吾爾に隠すこと無し。吾行
うとして二三子に与さざる者無し。是れ丘なり。

二三子とは弟子たちです。

孔子が言うには、お前たちは私が何か隠していると思っているのか。私は何も隠してはいない。お前たちは私の行動を見て、良かれと思うものを覚えればよいのだ。私は全てお前たちに分かるように見せて、真剣に学びたいと思う者がはっと気が付くように努力している。これが孔子流なのだ。

はっと悟るくらい真剣に学ぼうと思っていなければ駄目だと言っています。

【二十四】 子曰く、子四つを以て教う。文行忠信。

文は学業、行は実践、忠は誠実（人の為に図って心力を尽くす）、信は信義（何かことを行うのに嘘を言わない。結果として信頼が篤くなる）です。

孔子はこの四つの事柄をもって人を教えた。

【二十五】 子曰く、聖人は吾得て之を見ず。君子者を見ることを得ば、斯れ可なり。
子曰く、善人は吾得て之を見ず。恆有る者を見ることを得ば、斯れ可なり。亡けれども有
りと為し、虚しけれども盈てりと為し、約なれども泰なりと為す。難きかな恒有ること。

孔子が言うには、私は聖人という神のような徳のある人を見たことがない。君子らしい人を見ることができれば上等だ。善人という人にもまだお目にかかったことがない。心変わりをしない信頼できる人に逢えれば上等だ。無いのにあるように見せている（嘘をついている）。空っぽだったのがいつの間にか満ちている（何か悪いことをしていっぱいにしたのだろう）。儉約をするのが当たり前だった人が、いつの間にか贅沢になる。心変わりをしないというのは実に難しいものだ。

東日本大震災から学ぶ

今回の大震災があって、日常生活習慣を何か変えたという方はいらっしゃいますか？

- ・・・パジャマを着て寝ていたのですが、すぐに逃げられる格好に変えた。
- ・・・節電・節約に努めるようになった。

皆さん、だいたい同じような動きをされていると思います。私も生活習慣を少し変えました。以前から私は外出する時に忘れ物をしないようにチェックリストを作っていましたが、携帯、手帳、予定表、万歩計、薬・・・等々が書いてあるのですが、震災以降はそれに追加しました。ラジオ、懐中電灯、飲み物・食べ物（特に、地震で乗り物に閉じ込められた場合を考えて、水とアンパンだけは絶対に忘れないようにしています）といったものをチェックして、常に持ち歩くようにしています。その他、意識して備えておかなければならないものは、体力です。又、携帯電話とテレホンカードと10円玉が必要だと感じました。震災の時、私は上野からお茶の水まで歩いて来たのですが、公衆電話に人が行列をしていました。私も30件以上携帯電話から電話をしましたが、繋がったのは自宅だけでした。

おそらく皆さんも震災以降、生活のリズム・生活形態が少し変わったものがあると思います。人間は何かに出くわしたら知識を得るわけで、知識を得たなら、次にどうしようか具体的に考える。そして行動に移ります。そうやって何か学んで身につけると良いと思います。

今回の地震の対応をみると、日本政府のやり方は酷い。トップリーダーが悪いと組織が機能しないということが、まざまざと出ていると思います。まずは総理大臣を代えなければならぬだろうと思います。国民の声がもっと大きく盛り上がってきた時に、そうなると思います。

目先でいくつか気になっているものを申します。原発事故によって人の住めない地域が確実に生まれました。多分、30キロ圏内は人が住めないようになると思います。チェルノ

ブイリは事故から 25 年経ちましたが、住めない所が現在も残っています。

福島原発はアメリカのゼネラルエレクトリック社が作ったものですが、当時三十数機作って、アメリカで 18 機、日本に 3 機、その他各国にばら撒かれたわけです。設計者がまだ生きていますが、当時から重大な欠陥があったのを小手先の修理で済ませてしまったため、大事故を起こさないために操業を停止してくれるように必死になって会社に申し入れたそうですが、受け入れなかったのが責任を感じて退社したそうです。小さくて手軽な原発で、とにかく安かったから東電も買った。そういう代物だったわけです。調べてみると、前か国会でかなり問題になっていました。もし大事故が起きたら東電はどういう対処をするのか、どのような対策を練っているのか、国としてどのような指導をしているのか・・・そういう追求が、少なくとも 3 回は国会の中で質疑応答されていました。ですから想定外ではなく、想定内の事故だったわけです。

原発事故について（福島原発ではありませんが）学者がかなり詳しく論文を書いています。南海地震を想定して、大地震が起きて大津波に原発が襲われたら原発はこうなる・国家的な危機が発生するという論文を書いて、実際 5 年前に国会に呼ばれて発表しています。その時の東電側の言い分としては、学者は色々と想定して考えるけれども、大地震や大津波が来るということを我々は想定しないから今のままで十分大丈夫だと思っているということで、東電は何もしなかったようです。それで実際に事故が起きてしまって、想定外だというわけです。なぜそういうことを正直に言わないのかと思います。

枝野さんがだんだん苦しそうな無表情になっているのは、結果的に嘘をついているからではないかと思っています。20 キロから 30 キロ圏内は屋内退避となっていたのが、自主退避へ、今は強制退避をいつ発動するか検討中というところのようです。最初は、念の為ととりあえず出て下さいというものだったのが、最近は、戻りたいという住民に対して、リスクが大き過ぎるから決して戻ってはいけませんとなっています。枝野さんが同じ口で同じ対象について言っていて、公式見解は変えていないわけです。これはもう明らかに国民の為に良かれと思う嘘をついているのだと思います。これを菅総理が言ったなら、政治保身の為に言っているのだらうという気が致します。

私は今年、新聞を見る時に意識するものとして、三つの視点を申しました。一つは民主党がどんな無様な手を打つか。二つ目は鳥の強毒性の新型インフルエンザが起きると思っています。今のところ千葉で 2 回発生していますから、これも意識した方がよろしいでしょう。意識したなら、家の中に入る前に手を洗えるように対処したらよいと思います。それから自然災害です。今回のように何の兆候もなくドカンと来た場合は対応が出来ませんから、とにかく生き延びるための知恵をつけることです。王子に大地震の擬似体験が出来

る施設（北区防災センター）があります。私は実際に行って、関東大震災の揺れを体感して来ました。壁に背をつけて踏ん張って座っていても、壁が私の背中をどんと押し飛ばすような揺れでした。阪神淡路大震災の揺れは、関東大震災に比べればそれほどでもありませんでした。揺れを体験できる起震車というものもありますが、お勧めは王子の防災センターです。体験しておくのとしないのでは、かなり違います。自然災害が来るということ意識して、皆さんも自分自身の生活をもう一度見直しして、作り直しをされるのがよいと思います。

この後、何人かの方に震災時の体験をお話して戴きたいと存じます。私の講話は以上で終了です。